

「聞くには早く」ヤコブ1：19

「聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい」。

I 「聞くには早く」→うわさ話等を、耳を大きくして、早く喜んで聞くことではない。これは、主のみことばを良く聞くこと、真実な忠告に耳を傾けること（「愚か者は自分の道を正しいと思う。しかし、知恵のある者は忠告を聞き入れる」箴12：15、「忠告を聞き、訓戒を受け入れよ。そうすれば、あなたはあとで知恵を得よう」19：20）、他の人の悩みを良く聞いてあげることである。主のみことばにじっくり耳を傾けることは、最も主の心をお喜ばせすることである。「彼女にはマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた」ルカ10：39。私たちも、毎朝、また毎週の礼拝で主のみことばに聞き入る者となれますように。また、他の人の話をよく聞いてあげることは、その人への最高の愛の一つである。よく聞いてくれる人の存在は、悩む人にとり、大きな慰めである。「語るにはおそく」→罪人である私たちの世界には、聞く耳が不足し、語る口が多過ぎる。神は、私たちに、二つの耳を与え、口は一つ与えておられる（出4：11、箴20：12）。一つ語るためには、その前に二倍聞く心構えが必要。「自分の口を見張る者は、自分のいのちを守り、くちびるを大きく開く者には滅びが来る」（箴13：3）。語るにおそくとは、みことばを良く聞く前に、また人の話をよく聞く前に、自分で早くしゃべりまくらないこと。どの教会でも、主の御前に静まる前に、自分勝手な意見を語り、譲らないとき、みことばに示された御心は、押しやられる。みことばを取り違えて、自分勝手に語ることもある。また、他人のうわさ話や悪口、陰口を言ったり、そのような話題に乗ったりするわなから守られるように祈りたい。「歩き回って人を中傷する者は、秘密を漏らす」11：13。「軽率に話して、人を剣で刺すような者がいる」12：18。「陰口をたたく者は、親しい友を離れさせる」16：28。「主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください。私の心を悪いことに向けさせず、不法を行う者どもとともに、悪い行いに携わらないようにしてください」詩141：3、4。

II 正しい聞き方。

1. 人と交わる、相談に乗る時、その前に、自分自身が主の前に静まり、心と、聞く耳と、語る口を聖め整えていただく。
2. 聞く前に、がんがん語るのではなく、静かに相手の声に耳を傾ける。沈黙を恐れない。慰め主なる聖霊様がそこに働かれる。
3. 何とか励まさなければと、あせって語るのではなく、悩んでいる人に寄り添う、耳を傾ける。インマヌエルの主は、私たちに寄り添って下さる方、耳を傾けて下さる方。
4. 悲しみ、苦しむ人の言葉、響き、間、声の調子、沈黙、顔の表情、体の動き、姿勢、距離、息遣い、汗等には、①言葉としての内容と②感情、気持ち、意味があることをわきまえつつ聞く。
5. 人は、気持ちを受け止めて欲しい、理解して欲しいと願っている。語られる言葉の内容には、理解できないこと、同意できないことがある。神の下さる真の愛、思いやりは、相手の言う事に同意することではない。語られることにすべて同意し、一体化、同化（語る人と聞く人との間に主がおられるスペースがなくなる。神が与えておられる健全な境界線、人格の区別がなくなる。健全な自分

がなくなり相手と同じになる。健全な判断力、識別力がなくなる)するなら、相手を正しく助けることはできない。真の事実は、わからないのに、一緒に怒り、ある人を一緒に憎むようになるなら、その聞き方は、真の益とはならない。

6. 聞く時、安易な同意、同化、勝手な判断、勝手な評価、人間的同情（上から目線で相手を弱者と見る）を控えるように祈りたい。
7. すべての同意ではなく、つらい気持ちを受け止める聞き方が大切。大切な共感（共にいて相手の気持ちを受け止めてあげる）と同意は違う。主イエスは、私たちが間違っただけを祈りする時、同意はされなくても、聞いて下さり、つらい気持ちを、私たち自身を受け止めて下さる。そして徐々に間違いにも気づかせ、真実に近づけて下さる。
8. 上に立って相手を見下げる同情ではなく、相手の所、立場に降りて、相手を理解（understand）しようとする聞き方。それが愛である。イエス様は最高に高い天から降りて、私たちより低い、最高に低い十字架にまで降りくだり、私たちの罪のために死に、復活し、今は天に、そして私たちと共におられる神、救い主、最高の理解者。
9. 私たちは、神ではないので、完全に理解することはできなことを謙遜にわきまえつつ聞く。しかし、傍らに居ること、共に泣くこと、耳を傾けることが愛。
10. 交わりの中で、相手が正直に自分の悲しみ、つらさ、嘆きを分かち合ってくれた時、静かに耳を傾けることをせず、すぐに口を開き「こうしたらいい、ああしたらいい、もっと頑張りなさい」と言うなら、打ち明けた人は、かえってみじめになり心を閉ざすだろう。悲しみ、つらさ、弱さを打ち明けても、思いやりを持って耳を傾けてくれる交わりは、幸い。
11. 秘密を守る。他の人に言いふらさない。自分の口が守られるように祈りたい。「私のくちびるの戸を守ってください」詩141：3。※例外：ある人が自殺する可能性がある時、信頼出来る人の助けを求める。愛と識別力を祈り求めましょう。

Ⅲ 他の人の痛みを聞いて寄り添う人、助ける側の人は、自分も、自分の重荷を話し、聞いてもらうことができる交わりを必要としている。

父、子、聖霊なる神は互いに愛し合い交わっておられる神である。その神に似せられて造られた私たち人間は、互いに語り合い互いに聞き合う交わりの中で生き、成長するように造られている。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて」創1：26。すべてを御存じの神の前に静まり憩いを得たい。「主は…いこいの水のほとりに伴われます」詩23：2。また神が備えられた人々との交わりも大切にしたい。主にあって互いに支え合えますように。